

令和8年3月1日発行
154号
宗教法人東園寺

宗教法人 東園寺
〒985-0026 塩釜市旭町4-1
022(362)0777 寺務所
022(364)4444 寺FAX
022(362)8651 中央幼稚園

学校法人 東園寺学園
〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51
022(365)5616 第二中央幼稚園



つた 伝えよう
いのち 命の尊さ
ほとけ 佛の心

「人間万事塞翁が馬」

鄧州全忠老師筆
鄧州老師は南天棒という名で知られます。瑞巖寺124世かの乃木將軍も参禅したという禅僧です。



連れて帰って来ました！
周囲の人達は老人の言った通りだとこれを讃嘆しますが、周りの人の歓喜を余所に老人は「この駿馬が禍のもととなるかも知れない。」と手放して喜ぶことはありません。

少しすると老人の息子がこの駿馬から落馬して脚を骨折してしまいます。周囲の人はこれを見て同情しますが、老人は再び

昔々、国境の若近くに馬の調教が上手な老人がいました。しかしある時老人ご自慢の馬が国境を越え隣国の土地に逃げてしまったのです。他の人達は老人が気落ちしているのではないかと同情しますが、その老人は「どうしてこれが福とならぬことがあるのか！」と全く落ち込む素振りもありません。

数ヶ月すると逃げた馬が外国の駿馬を

「これが福をもたらすかも知れない」というのです。

一年程経った時、隣国が突然国境を越えて攻めて来ました。老人の息子と同世代の若者はみんな戦争へ駆り出され、十人のうち九人までもが戦死しました。老人の息子は落馬で脚を怪我していた為に兵役を逃れ、戦火が収まった後、家族は幸せに暮らしたそうです。

これは『淮南子』という書物にある「人間万事塞翁が馬」という有名なお話です。我々が感じる幸福とか不幸は時節や様々な条件で刻々と変化する者だから一喜一憂せずに虚心坦懐に生きなさいという戒めですね。頭で理解していても出来なさそうな事ではあります。が、凄く落ち込んだ時など、こんな考え方が出来れば少し楽になるかもしれないです。

瑞巖寺雲居国師の教えの中に「今日の楽は明日の苦、今日の苦は明日の楽。今生の楽は来世の苦、今生の苦は来世の楽。」があります。来世のことを考える暇がある人は少ないかも知れませんが、とりあえず日々時間を活かし、前向きに一所懸命生きていものです。

坐禅会

毎月第2第4日曜日
朝7時〜7時45分

参加無料
予約不要

初心者向けの坐禅会です。お気軽にお越しください。

涅槃図修繕募財について

おかげさまで涅槃図修繕募財は7,870,000円(2月現在)のご協力を賜り目標額に達しました。今年はお縁を頂戴し、東園寺所蔵涅槃図と同じ小池曲江筆の涅槃図(個人蔵)をお借りして涅槃会参観日の行事を営むことが出来ました。



右上↗解体…本紙、表具と軸棒など掛け軸を構成する絵そのものや表具の各部位が解体されます
右→こちらは佐浦家が施主となってこの涅槃図が描かれ、法蓮寺に奉納された経緯がこの絵を描いた絵師である小池曲江自身によって書かれた文書です。涅槃図の裏面に貼り付けられています。これも一度涅槃図から剥がされ、修繕の際にまた同じ場所に貼り付ける予定です。
左上↖表具の裏面の紙が剥がされています。



涅槃会参観日の様子



右上↗絵の具がこれ以上剥落することを防ぐ為、剥落止が塗られます。
左上↖絵の裏側に貼られた裏打ちを剥がす前に、絵を安定される為絵の表面に薄い紙が貼られます。これを表打ちというそうです。
左←表打ちによって補強された絹本から肌裏紙が除去されます。

東園寺中興開山曹源和尚



曹源和尚頂相

3月2日東園寺中興開山曹源祖水和尚の毎歳忌です。

曹源和尚は元禄15年（1702）松島の桜井家に生まれ、7歳のとき伊達政宗公の長女である五郎八姫の菩提寺天麟院住職の燈外和尚のもとで出家得度しました。曹源和尚の風貌は特徴があり、頬がふつくらとして眉が薄く、耳たぶが肩にまで垂れるように長く、ちょうど道家の祖である老子様にそつ

くりだったと伝えられます。

曹源和尚は17歳になると諸国行脚に出られ、江戸東禅寺萬庵和尚、下総光福寺定山和尚、駿河清見寺陽春和尚に参じて研鑽を積みました。さらに曹源和尚ははるか九州まで脚を伸ばし、豊後多福寺西江和尚、日向大光寺古月和尚に参じました。古月和尚は俗に「東の白隠、西の古月」と呼ばれる当時最も傑出した禅僧で曹源和尚は古月

和尚の膝下で5年修行し見事に悟りを開きました。その後、曹源和尚は京都妙心寺無著和尚や東福寺の象海和尚など名だたる名僧と見え松島に戻り、政宗公正室愛姫の菩提寺陽徳院住職の江南禅師の教えを嗣いだのです。

曹源和尚は石巻蛇田に庵を結び竜華庵と名付けてさらに7年にわたりここに閑居、ひたすら坐禅に取り組み悟りの心境を深めました。38歳となられた曹源和尚は五代仙台藩主伊達吉村公の請により天麟院の住職に就任。15年間同院に住職した後、52歳で陽徳院に転住、宝暦9年（1759）58歳の時に桃園天皇の詔により本山妙心寺に視篆（視篆は自

らの篆印を確かめて押印するという意味。妙心寺の世代に名を載せる儀式。）します。同年には瑞巖寺110世となり、明和5年（1768）、66歳で妙心寺に再び住し、翌年には後桜町天皇に拝謁しています。妙心寺を住持すること3

年、69歳の時に松島瑞巖寺に帰山、75歳頃から東園寺復興に着手、安永9年東園寺が完成すると東園寺に隠居。天明5年（1785）84歳で遷化するまで東園寺で過ごしました。

東園寺に伝わる曹源和尚の頂相は猫を抱いた姿で描かれています。実際、猫を大変可愛がったようで、瑞巖寺を引退する際に詠んだ漢詩に次のようなものがあります。

壁間に掛在す七尺の藤
従来、宗乗を挙するに力なし
東風日暖かにして春睡を催す
三箇の猫児と一箇の僧

(意識)壁に藤の杖をたて掛けて修
行者を鍛える準備はしている
が、もともと私に宗旨を宣揚
する力などにはありません。
東から吹く暖かい風の春日の
もと居眠りする、三匹の猫と
一人の僧に過ぎないのだ。

※東園寺ホームページでは曹源和尚
の伝記をPDFで読む事が出来ま
す。是非ご覧ください。

東園寺公式ホームページ毎月
更新!

法話や東園寺所蔵書画のご紹
介をご覧くださいだけです。



<http://www.toenji.com/>

行事報告

■成道会・寺宝展

去る12月18日成道会、12月18〜20
日寺宝展を開催しました。



■除夜の鐘



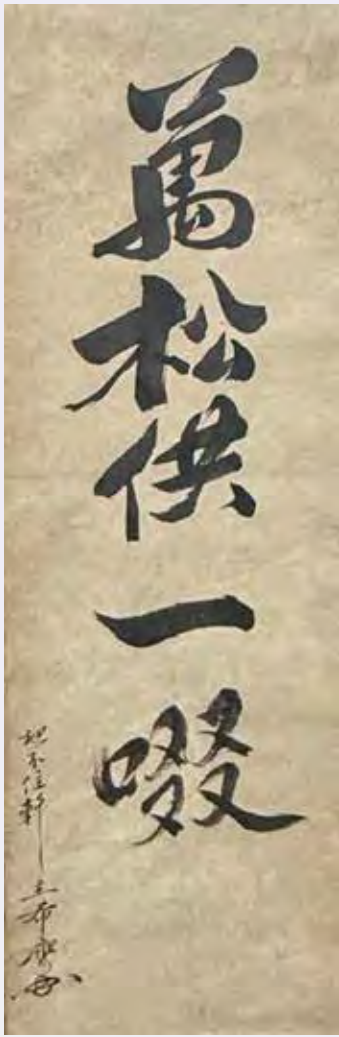
今回の除夜法要は久しぶりにた
くさんの方々にお越し頂き、コロナ
禍前の賑わいを取り戻す事が出来
ました。またかまぼこの水野様より
おでん、東園寺青壮年部青松会より
甘酒が振る舞われ、参拝者の心身を
温めて頂きました。

寺庫紹介

萬松供一啜

雲居禪師による一行書です。細字で法語のような作品が多い雲居禪師ですが一行書は少なく、本作のような茶席に掛けられる語句となると極めて希少です。あまり字を崩すことなくしつかり書かれた墨蹟です。後述の禪語の内容も相まって清々しい心地にさせてくれる作品かと思えます。

「萬松供一啜」は一般に「萬壑松風供一啜」と書されることが多く、中国南宋末の禪僧介石禪師の『介石禪師語録』に「恵山煎茶」と題す次の偈頌に由来する禪語です。



雲居希膺禪師



小池曲江居士

「瓦瓶、破曉に清冷を汲み、石鼎、移り来て壊砌に烹る。萬壑の松風、一啜に供し、自ら双袖を籠めて水辺に行く」（江蘇省無錫にある恵山寺にある石泉は天下の名水として名高い。早朝に素焼きの瓶を携え清冷な水を汲んで、石の鼎を崩れた石段に置いてお茶を入れる。谷間から湧き上がる風と共のこの茶をひと啜りし、両袖に腕を入れて溪流の辺りを歩く。）

重なる谷から吹き来る松風を一杯の茶と共に味わうという意味の禪語です。また単にお茶を飲むだけでなく、大自然を丸ごと一口で飲むような、天地自然と一体となった悠然とした境地を表しています。

雲居禪師の本作は壑と風を省略していただけますので多くの松の木と共に一杯の茶を

喫すという表現になります。雲居国師が好まれた松島雄島の一隅で坐禅し、松の木々と一体となった境地を表すのでしょうか？

菊に鶏図

戊午の夏に描かれた作品。曲江活躍期の戊午は寛政16年（1798）、曲江41歳です。他の若い時代の作品に見られるように繊細な筆致で描かれています。

菊は君子の高潔さと長寿を象徴する植物。鶏は中国語の音が吉（CHU）と通じ、雄鶏を意味する公鶏の公と「功」、鶏冠の冠と「官」、時を告げる鶏の鳴き声である「鶏鳴」の鳴と「名」の語呂合わせから「功名」や立身出世を象徴する画題とされます。

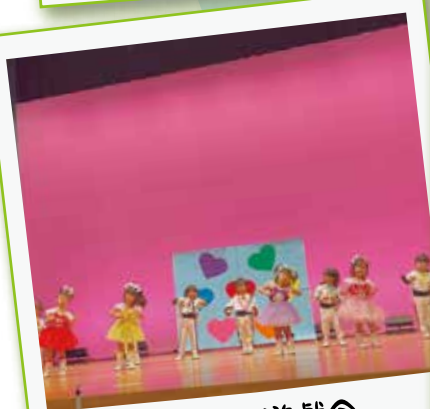
塩釜中央幼稚園



成道会お遊戯会



お茶のお稽古



成道会お遊戯会



運動会



参観日給食試食会



写生会



お店屋さんごっこ



いもほり



THE ZEN CLUB K&B GYM

東園寺研修センター内にある

スポーツクラブです。

東園寺檀信徒は入会金が免除になります



お問い合わせ

利府町加瀬字野中沢 90-1
TEL022-356-7071

幼稚園だより

塩釜第二中央幼稚園



おゆうぎ会



お店屋さんごっこ



まめまき



もちつき



園外保育



運動会



いもほり



園外保育

これからの行事

●花祭りの夕べ

4月18日 午後3時30分

「アロハの島で寺めぐり〜東園寺とハワイ開教院〜」

小川隆平先生・はつこ先生

ハワイ諸島の寺院とその歴史背景を研究されているお二人が東園寺と深い縁を持つマウイ島開教院についてお話ししてくださいます。

場所 東園寺本堂

会費1,000円(高校生以下無料)楽しいくじ引き大会があります。
※チケットを事前にお求めください。



お釈迦様お誕生祝い
第43回
仏教文化講演会
花祭りの夕べ
令和8年4月18日(土)
午後3時30分 東園寺本堂
アロハの島で寺めぐり
東園寺とハワイ開教院
講師 小川はつこ先生・隆平先生
午後3時30分開演会、初まげき講演会、講演に引き続き、くじ引き大会。
午後6時頃終了予定
会費 1,000円 ※高校生以下無料、クイズ大会、余金はあがります。
チケットのお申込み、お問い合わせは東園寺 電話0470-401

●大回向

5月1日午前10時より

法話と大般若祈祷・大回向供養

恒例の大回向会おえこうえです。東園寺

では5月が善月といつて特に良い

行いを尽くすべき月ですので大般若

若祈祷会を営みます。善月は1月、

5月、9月で、この3つの月は閻

魔王が持つ浄玻璃の鏡に私達の

生活が良く映し出され、善業を積

めば功德が増し、悪業を積めば普

段以上に閻魔王に知られること

になると伝えられます。

大回向会のご案内は改めて送付

致します。

●塩竈港開港恩人 四代仙台藩主



伊達綱村公毎歳忌宿忌

6月19日 午後6時

東日本大震災犠牲者毎歳忌

3月11日午後2時46分
東園寺本堂

震災犠牲者の毎歳忌を営みます。どなたでもご参加いただけます。

平服でお越しください。

